

報道関係者各位
プレスリリース

foop が火星模擬居住研究実験基地へ！

～宇宙空間での植物の役割を探す～



村上祐資氏(MDRS Crew191 TEAM ASIA 隊長)とfoop

アドロンテクノロジー株式会社（本社：東京都港区）は、日本初のIoT水耕栽培機「foop」が、この度NPO法人日本火星協会が2018年3月24日より火星模擬居住研究実験基地(MDRS, 米国ユタ州)に派遣するチーム(MDRS Crew191 TEAM ASIA)とともに実証実験に採用されたことご案内いたします。

MDRSは、「地球にある火星」と言われており、今回のチームの目的は、「火星の場で日本人とインドネシア人の異文化混成クルーでの相乗効果」、「火星に行くために何をするか」という課題を見つけることです。宇宙空間の中で人同士が協調するために何が必要かなどストレスの再現やその解決策を見つけることを目的としています。

その中でfoopの役割は、宇宙空間の中で野菜が育つことで植物が時計代わりになったり、食事に色があることの再発見や喜びが人の心にどのように影響を及ぼすことができるかなど、新たな発見を探ります。MDRSの実験では、foopで野菜を育てること以外に環境センサー機能を有効に活用できる仕組みも活用されます。

「IoT 水耕栽培の未来は、火星からはじまる！？」の第一歩として MDRS Crew191 TEAM ASIA を応援します。

NPO 法人日本火星協会：<http://marsociety.jp/>

【foop について】

『foop』は、日本発のスマートフォン連動型の IoT 水耕栽培機で、日々の野菜栽培の状況について複数のセンサーが検出する環境データを専用アプリで確認することが可能であり、野菜毎の育成（レシピ）機能により、エアープンプ、LED 照明、ファンの強弱の調整機能のほか、クラウド技術を通じてユーザーの野菜栽培をサポート、栽培を成功に導くさまざまな機能を備えた「インテリア野菜コンピュータ」です。

<https://foop.cestec.jp/>

以上

【本リリースに関するお問合せ先】

アドロンテクノロジー株式会社

メールアドレス：foop-info@cestec.jp

【弊社概要】

アドロンテクノロジーは、世界有数のスイッチング電源、冷却ファンメーカーであり、またパワーマネジメント、電子部品、ディスプレイ、FA、ネットワークから再生可能エネルギーソリューションまで広範に渡る機器とサービスを提供しているデルタ電子グループの企業です。

会社名： アドロンテクノロジー株式会社

所在地： 東京都港区芝大門 2-1-14

設立： 1998 年 3 月
